

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	東京藝術大学
整理番号	B03
構 想 名	“藝大力” 創造イニシアティブ ～オンリーワンのグローバル戦略～

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） A	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
（コメント） 事業期間全体において、①Integration【統合・集積】、②Collaboration【共同・共演】、③Development【展開・発展】、④Branding【価値・プレゼンス向上】の4つの観点から、我が国唯一の国立総合芸術大学として世界最高水準の教育研究を実践してきた強み・特色を活かし、“藝大”にしか実現できない独創的・先導的なグローバル戦略の基、「オール藝大」体制で進められたものとなっている。 具体的には、①において、新たな研究科や専攻の立上げによる、国際共同カリキュラムの開発等での教育研究プログラムの高度化や、教員・事務・評価体制の整備のための大胆な改革、②においては、積極的に人材育成プログラムを組み入れることでの国内外の第一線で活躍しているアーティストの招へいや、ダブルディグリープログラムの構築、国際共創キャンパス（Shared Campus）への加盟、③においては、全国芸術系大学コンソーシアムの発足や、上野文化の杜事業の先導による事業の横展開、④においては、Shared Campusメンバーを中心とした世界の芸術大学と連携した（Arts 7）の創設や、Shared Campusの理事級会議の開催などによる国際プレゼンスの向上など、それぞれの観点において、独自性の高い取組みを展開している点が評価できる。その他、中学生を対象とした「ジュニア・アカデミー」、附属音楽高等学校からの「飛び入学」試験を起点とした「スペシャルソリストプログラム（SSP）」の整備などといった、早期教育も充実しており継続が望まれる。これらの取組みの成果は、事業期間に在学した卒業・修了生や在学生の世界的なコンクールでの入賞が続くなどに表れており、芸術系大学の国際化モデルとなるものであると言える。 一方で、コロナ禍の影響もあったと考えられるが、学生の流動性に関しては、日本人の送り出し、外国人学生の受入れの双方において、実績値としてはまだ少ない。日本人学生の語学力強化や、受入れた外国人学生を混住型宿舎に居住させる工夫等を通じ、さらなる国際化の推進が望まれる。その際、芸術系大学らしい特色のあるものとなるよう、引き続き構想名にも含まれている、「オンリーワンのグローバル戦略」を期待したい。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	